

平成 27 年度長崎県立大学COC事業評価報告書【全体評価】

1. 事業実施計画

○平成 27 年度

実施3年目であり、事業の中間年度であることから、地域と課題解決に取り組み、成果の出ている取組については大学主催で発表会を開催し、地域への周知を図る。また、初年度より構築を進めてきた e-ラーニングシステムの運用を開始する。また、グローバル人材育成のための学部学科再編案について、カリキュラムと併せて、計画案を最終的に確定させる。

その他、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録に併せて、学生をボランティアガイドとして派遣するなど、地域の取り組みに協力を行なう。

2. 推進本部自己評価

平成 27 年度の事業実施計画と事業の実績及び成果全般に鑑みて目標を達成することができたか。

評点： Ⅲ

○判断理由

事業の実績

- ・地域の課題を学生が抽出し解決策を考える「しまなび」プログラムを、全学必修科目として経済学部、国際情報学部の学生が実施した。看護栄養学部については 2 年次に実施するので、実際には平成 28 年度から開始する。学生は事前の講義形式の授業でしまのことを学び、課題を考えたうえで実際にしまでフィールドワークを行い、課題解決策をまとめた。フィールドワークの成果は地域住民の方と意見交換しながらまとめ、学内での発表のみならず地域へ向けても発表し、地域の方と意見交換も実施した。このことにより地域との関係を深め、今後の課題の抽出や解決方法、学生の活動へのサポート等についても双方の理解を深めることができた。
- ・地域の生涯学習の促進や健康増進への取り組みのため公開講座や健康講座、女性のキャリア支援講座等を開催した。
- ・グローバル人材育成や地域を志向した学部学科への改組に向けて、カリキュラムや入試方法等を決定し、文部科学省に届出を行った。

事業の成果

- ・「しまなび」プログラム全体として、学生が地域課題を考え、フィールドワークを実施し、その成果を学内外に発表することにより学生の課題探究能力や問題解決力、発信力等を高めることができた。
- ・学生のフィールドワークの成果を地域の方々へ発表し、意見交換を行うことで活動成果の地域への還元ができた。また、大学や学生にとっても今後の研究テーマや方向性を確認することができた。また、学生の活動成果の中で実際に活用できそうな素材については、地域の方とディスカッションを行い、具体的な活用方法等について検討を行った。
- ・学生のアクティブラーニングや PBL 形式の授業をサポートするための e ラーニングシステムを平成 26 年度の試行での反省や学生の意見等を参考にさらに改善した。これにより使いやすくなり、効率的な授業運営が可能となった。

3. 評価委員会評価

平成 27 年度の事業実施計画と事業の実績及び成果全般に鑑みて目標を達成することができているか。

評点： Ⅲ

○判断理由及び意見

項目別評価結果

	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
1. 教育	2	5	0	0
2. 研究	0	6	0	0
3. 社会貢献	1	3	1	0
4. 全体	0	3	0	0
合計	3	17	1	0

- ・実施計画の項目別の評価結果については、「Ⅳ」が3項目、「Ⅱ」が1項目、残りの17項目は「Ⅲ」であった。
- ・特に離島でのフィールドワークについては、平成 27 年度に実施した経済学部と国際情報学部のほぼ全員である 602 名の学生と教員 54 名が参加し、56 グループごとに、それぞれのテーマを設定し、実施されたことは評価できる。

- ・また、地域における意見交換、全体発表会等を実施し、地域の方と直接コミュニケーションが図られるとともに、大学と離島7地域を遠隔システムで結んだ全体発表会においては、異なるしまの関係者同士の意見交換につながった。
- ・世界遺産登録に併せた学生のボランティアガイドについては、世界遺産への登録が見送られたこと等により実施されていない。世界遺産に登録されるかどうかに関わらず、学生が地域の遺産を勉強し外部の人に紹介する活動は重要であり、今後の取り組みを期待する。
- ・平成27年度の活動については、順調に実施されており、全体評価としては自己評価通り「Ⅲ」が適当である。